

旭岳東稜

2018年3月17日(土)~18日(日)

メンバー：510、岩代、岩川(記)

「雪がたっぷりの八ヶ岳東面を登りたいですね～」と昨年から岩代さんと話をしていた。しかし、何だかんだ2人とも忙しく計画を出せないままシーズンが過ぎようとしていた。そんな中、510さんから八ヶ岳旭岳東稜の話が持ち上がる。シーズンも終わりに近いが、久々の雪稜登攀が決まった。なかなか行けていなかった雪稜、そして510さんとの初アルパイン、これはもう楽しまなければ…

3月16日(金)前日のうちに、美しの森駐車場に入る。寝床の準備をしていると「星を撮っているんだからヘッテンを下に向けてくれ」とクレームが来た。しかも、最初から怒り気味に数回注意される…出入りがある駐車場で撮らなくても…と内心思ったが、ちゃっちゃと眠りにつく。

3月17日(土)、気温はぐっと冷え込んだ。暖かい浜松に慣れた体にはこたえる。手早く装備を整え出発。その日のうちに東稜を抜ける計画の為、足早に歩を進める。出発して間もなくスキー場に出る。こっちなかという感じで進んでいくが何か違う。本来真教寺尾根の南側に抜けるはずが尾根の北側に来てしまったのだ。これは思わぬロスということで、急ぎ足で尾根を越える。道は違ったが富士山が綺麗だった。本来の道に入り、出合小屋までは林道歩きが続く。出合小屋で小休止をとり登攀装備を身につける。出合小屋からは、数回の渡渉をしながら旭岳東稜を目指す。東稜の取付き以降はそれまでの林道歩きから一変して急登となった。軽快に進む510さんの後ろを、息を切らしながらついていく。510さんの体力の高さに驚かされた。しばらくすると、細いリッジのアップダウンが続き、視界が開けてきた。五段の宮手前の草付きの急登が始まる。気温が高くなり、雪が緩く実に気持ち悪い。草をわしづかみにしながら慎重に越えていく。あとで、資料を見ると、ここはロープを出すこともあるようだ。(どうりで悪いわけだ…)そんな草付きを越えると、ようやく東稜の核心部である五段の宮が目の前に現れた。五段の宮はその名の通り綺麗に五段に分かれていた。一段一段登りごたえがありそうである。計画ではそのまま抜ける計画だったが時刻は12時半を過ぎていた。日があるうちに抜けることはできそうだが、気温が高く雪が緩んできていた為ここで幕営をすることとする。幕営はリッジの上だったためテント一張分の狭いスペースとなった。時間はたっぷりあったが、翌朝のクライミングに備え早めに床につく。



核心部の五段の宮と1日目の幕営地

3月18日(日)、少し肌寒かったが、綺麗な雲海と富士山が出迎えてくれた。今日はいきなり核心部からのスタート。1ピッチ目は私のリード、雪がなく暖かいため素手で登る。五段の宮のうち三段分を登りピッチを切る。段ごとに癖があり面白かった。一段目と三段目の抜けが少し悪く感じた。スタンスを信じきれない場面もあったが、久しぶりのアイゼン登攀は気持ちの良いものだった。2ピッチ目は510さん。岩場での動きがとても安定している。支点の作り方も慣れている。やはり、いろいろな人のクライミングを見るのは面白い。五段の宮は2ピッチで抜けることができた。そこから旭岳までは細いリッジの登りが続く。ここでは、灌木に支点をとることが多かった。支点の無い場所では、腰がらみを行った。立岩での練習を実践することができて良かった。リッジを数ピッチ登るとあっという間に旭岳の頂上に出た。久しぶりの雪稜を無事に登り終え3人で満足感に浸った。稜線上は風が少し吹いていたが、それでも凍えるようなことは無くポカポカとしていた。八ヶ岳も冬のシーズンが終わり春に近づいているのだと感じた。下りはツルネに向かいツルネ東稜を出合小屋まで一気に下る。出合小屋からは再び林道歩きとなる。これがまた長い…帰りは行に間違えたところを通らずそのまま駐車場へと下った。



明け方の富士と東稜後半のリッジ



山頂にて